

4. 今後の課題

昨年度は、教育課程を作成し、本年度は、生活単元学習を中心に、「動き」という考え方を柱にして、研究を進めてきた。今後研究すべき課題をあげてみると次のとおりである。

- (1) 教育目標と研究テーマとの結びつきを明らかにする。
- (2) 「動き」についての考え方についてもっと研究を深め、よりわかりやすくする。
- (3) 生活単元学習についての実践を深め、指導計画の充実を図る。
- (4) 研究テーマに基づいた実態調査の内容、方法を明らかにする。
- (5) 本年度の研究を基に、実態についての追跡調査を行い、その分析を行う。
- (6) 研究テーマに基づいた授業記録のしかた、およびその分析と診断のしかたを明らかにする。
- (7) 簡単に記入できる実用性の高い授業診断票の作成をする。

昭和 57 年 3 月 1 日

主な参考引用文献

1. 教育研究紀要 第1集 教育課程 昭和55年度 鹿児島大学教育学部附属養護学校
2. 実践 生活単元学習 小出 進責任編集 学習研究社
3. 重度障害児へのムーブメント教育理論適用による実践的研究 昭和55年度
国立特殊教育総合研究所長期研修成果報告
4. 精神薄弱児の機能訓練 半場正信著 学芸図書K・K
5. ムーブメント教育 フロスティグ著 小林他訳 日本文化科学社
6. 盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領 昭和54年 文部省
7. 養護学校（精神薄弱教育）学習指導要領解説 1974. 文部省

研 究 同 人

校 長	土 屋 正 幸		教 諭	徳 田 篤 郎	
副 校 長	高 城 芳 男		教 諭	竹 下 辰 次	
校 務 主 任	宮 原 睦	中学部	教 諭	森 尾 恭 光	
小学部	教 諭	上 村 伸 雄	教 諭	小 園 健 一	
	教 諭	永 江 武 紀	教 諭	下 原 智 子	
	教 諭	高 木 寛 治	教 諭	重 山 岩 久	
	教 諭	福 田 孝 志	高等部	教 諭	平 屋 浩 司
	教 諭	町 純 子	教 諭	山 下 加 代 子	
	講 師	国 武 み ち 子	養 護	養 護 教 諭	有 村 信 子
		非常勤	講 師	早 川 孝 子	